



東北方面

西栗原の大富源を 開發せしめる道路開鑿

宮城縣栗原郡金田村附近一圓町村民の十數年來の希望であつた細倉嶺山と、同村川口間の道路開鑿は機運漸く到來しやつと實現の歩にいたので、地方町村民は好個の御大禮記念として、極力其の完成を期してゐる、過般縣土木課の技術員一行が來村約三週間滞在の上、精密な測量設計が出来上

つたので、金田村ではこゝでとばかり全村舉つて期成同盟に加盟し、十二月十三日に第一回總會を開いて其の氣勢を擧げた、地元負擔は素よりのこと村の有力者等は自己所有の土地寄附を進んで提供する等の熱心まである、十四日には地方町村及同盟會員舉つて上仙し縣土木課へ嘆願した、金田村は南は陸羽線池月に一里北は僅か一里行程の細倉嶺山に至りそれより尙北方に文字、栗駒、岩ヶ崎、尾松等に通じ東は一迫町、築館町等に隣接してゐる地方の要衝で、また西方花山村は俗に山の海と稱せられ一村で志田郡以上の面積が林を以つて埋まつて

東海方面

豊橋市内 自動車の發達

あるので此の開發は西栗原の大富源であるのみならず、金田村から朝夕細倉通ひの労働者は數十名を算へ實現の曉は是丈でも非常な便利である。

愛知縣豊橋市内の自動車交通は最近非常な發達を來し、現在市内を運轉しつつある乗合自動車、

- 豊橋自動車會社三十二臺
 - 福井自動車 五臺
 - 小林 三臺
 - 豊鐵 二臺
 - 二川通ひ 二臺
 - 日出 二臺
- 計四十六臺からものが間斷なく動いて

近畿方面

惡道路に惱む村民

兵庫縣城崎郡日高町から三方、清瀧に至る府縣道はひどい惡道路で、各町村の通學兒童は勿論附近村民は日々通行に大困難をしてゐるが、縣及町村當局者は其の事實を知りつゝ、應急處置をも執らぬため一般民は道路交通に對する當局の冷淡な態度に對して非常に憤慨してゐる。

可愛らしい小學生が

交通整理を體驗する

交通機關が發達し普及するにつれて、文明の利器から享ける便宜が多くなると共に、其の反面に於て衝突、顛覆、轢殺等の交通事故が毎日に數を増し、其の性質も亦惡化して來た、そして交通地獄を呪ふ聲が高まり擴がつてきた。殊に都會にあつては

居る外、貸自動車が營業者十八人で四十餘臺を持つてゐる、之がため市内の重要交通機關たる市街電車まで相當の影響を蒙りつゝある程で殊に人力車の如きは乗客を自動車の吸引されて一向振はず、昨年は今頃三百臺からあつた人力車も今年は二百五十臺に減つて了ひ尙營業者は業績の不振をコホし或は廢業しやうかと考慮してゐるものも少くない。一方市街電車はこうした自動車の發達に對抗すべく現在の路線を複線化し別に軌道を延長して市内循環の計畫を樹てゝ居るが、何分にも豊橋都市計畫が遅々として進捗しないので積極的に同計畫を進め難い實情にあり、都市計畫道路の實現に伴つて具體的に進捗を期し、行く／＼は市内循環及重要線を複線化して乗客の吸引策を講じ、一方賃金も値下して現在の區間制を廢し均一制に依らんと目下調査成案中である。

汽車、電車、自動車、自轉車、オートバイ等が縱横に交叉して街頭に立つ人々は絶えず怯えてゐる。すべての親は愛する子供達が遊びに出るにつけても、學校の行き歸りにも怪我をしないやうにと祈るばかりに心を傷めてゐる、此の危険な状態を如何にして救済すべきかといふことが當面の問題として各方面で考究されてある折柄、大阪市南區難波新地五精華尋常小學校では、交通道德の鼓吹は子供時代から實施すべきであるとなし、男女兒童に組織的な交通事故防止の訓練を行ひ兒童自ら交通整理に當つてゐる。即ち全生徒を數百の友團に分ち近所の者同士が五人乃至十人一友團を形造り、登校する際には誘ひ合し、歸るときには校門で待ち合すのである。そして上級生を團長として其の兒童が他の下級生を引率し、電車や自動車が疾走してきて危険な時には兩手を擴げて一行に「ストップ」を命じ、安全になつてから「ゴー」せしめる。それ

でも萬一誰かに誤ちが生じた場合には、手分して負傷者の自宅と學校へ、いち早く報告するやうになつてゐる。だから同校の前に立つて眺めてゐると、朝は數人の兒童が必ず一團を組んで連れ立つて登校し、午後授業が終るなり幾百の兒童が雪崩を打つて溢れ出すや忽ち幾つもの細胞に分割され混沌たる可愛い人波のなかに整然として秩序を見せつつ四方八方へと散らばつてゆくのを見ることが出来る。

加西府縣道指定改良工事

兵庫縣加西郡の本年度に於ける府縣道指定改良工事は姫路社、芳田西脇、瀬加西脇の三路線で何れも夫々工事中であるが、總工費一萬五百八十圓

姫路社は下里村三口から來笠原に至る延長四百九十八間で明春二月二十一日竣成
芳田西脇線は芳田村合山より下新田に至る延長三百六十二間で明春一月十八日竣

工、瀬加西脇線は大和村上三原地内延長二百七十三間で明春一月八日竣工
何れも屈曲坂路を變更し幅員を擴張するもので竣成開通の曉は面目を一新するであらう。

九州方面

交通事故なしデー

福岡縣では十二月十七八の兩日縣下一齊に交通事故防止デーを行ひ、大々的の宣傳をなした、當日は數臺の自動車隊を組織して、宣傳ビラを撒布する外、自動車、電車、自轉車、軌道車等の乗務員には事故防止のマークを佩用させて、一件の交通事故をも發生せぬ様徹底的の防止デーであつた。年末のことゝて一入交通頻繁であつたので縣下二千三百名の警官が總出動して、縣下一齊に交通取締を實施した。

東久留米驛連絡

新道路漸く決定

福岡縣久留米市土木委員會は、十二月十四日午前十時から市役所に於て、十三日の同委員會に引續き久大西線東久留米驛連絡道路開鑿に付き協議したが、目下市土木課で計畫中の東久留米驛前から一直線に國分小學校横の市道に通する延長九十間幅四間の新道が、後一ヶ所を残した外全部同道路敷地所有者の諒解を得てゐるので、委員會でも之を承認し未解決の一ヶ所が解決すると共に、直に工費約二千圓を以つて工事に着手せしめ、久大西線開通前後には竣工させることゝなつた、尙同工事費は一時他の市費を流用し、次の市會に追加豫算として提出されるらしい。